



(左上) 徳島大空襲後の徳島市街 (1945年、立木写真館提供)  
 (左下) 北京時代の寂聴 (21歳) と近所の子供 (1943年)  
 (右上) 国会前で安保法制反対のスピーチをする寂聴 (2015年、朝日新聞社提供)  
 (右下) 湾岸戦争の即時停戦を祈って断食中の寂聴 (1991年)

# 戦後80年 寂聴と戦争

徳島県立文学書道館 文学特別展



2025年 4月8日(火) - 5月25日(日)

[会場] 1階特別展示室 3階収蔵展示室

[休館日] 月曜日 (ただし5月5日は開館)

[開館時間] 9:30 ~ 17:00

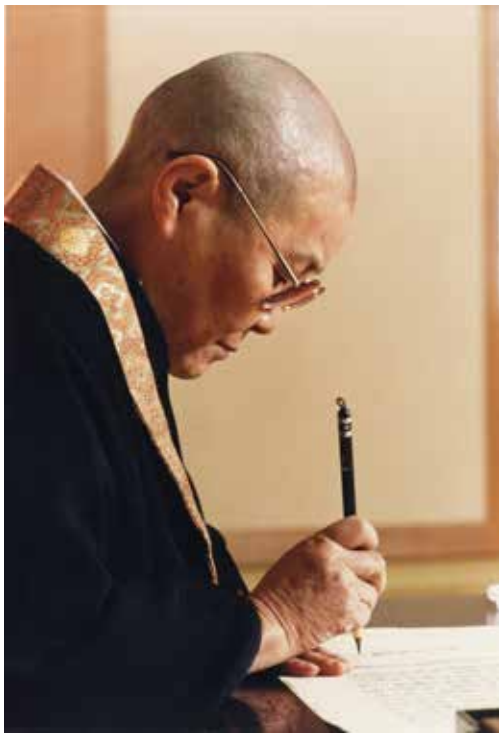
[観覧料] 一般 520 (410) 円 高校・大学生 360 (290) 円 小・中学生 260 (200) 円

\* ( )内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。  
 小・中・高校生は土・日・祝日は無料。

[主催] 徳島県立文学書道館

[後援] 徳島新聞社・四国放送・NHK徳島放送局





湾岸戦争の即時停戦を祈って写経をする寂聴（1991年）

瀬戸内寂聴（1922-2021）は、日本が太平洋戦争に向かうさなかに青春時代を過しました。日本占領下の北京で結婚生活を送り、長女も生まれました。しかし、幸福な時間は長くは続きませんでした。1945年、北京で敗戦を迎え、親子3人で故郷・徳島市に引き揚げます。そして、そのとき初めて徳島大空襲で市内が焼け野原となり、母が空襲で焼死していたことを知ったのです。そうした戦争体験が、戦後、作家として出発した寂聴に強い反戦意識を植え付け、出家後の反戦活動へとつながりました。戦後80年の今年、寂聴の戦争体験がその後の人生と文学にどのような影響をもたらしたかを振り返ります。



瀬戸内寂聴の原稿「いい戦争などはない」（2016年）

## 関連イベント

### 講演会 「いくつもの戦いと和解」

講師：尾崎真理子（文芸評論家）

日時：5月10日（土）14:00～15:30

会場：1階ギャラリー

定員：150人（申込多数の場合は抽選）

※申込締切は4月22日（火）。参加無料



1959（昭和34）年、宮崎市生まれ。読売新聞編集委員、早稲田大学教授などを経て文芸評論に専念。記者として92年から瀬戸内寂聴の取材を続け、その成果を『寂聴文学史』にまとめた。他の著書に『ひみつの王国 評伝石井桃子』（芸術選奨文部科学大臣賞、新田次郎文学賞）、『詩人なんて呼ばれて』（谷川俊太郎との共著）、『大江健三郎の「義」』（読売文学賞）など。2016年度日本記者クラブ賞を受賞。

### ＜講演会の申込方法＞

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号をご記入のうえ、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

### 展示解説 講師：和田輝（当館職員）

日時：4月12日（土）、5月17日（土）各11:00～11:30

会場：1階特別展示室 ※申込不要、要観覧券



湾岸戦争の際、命がけでイラクに薬を届け、戦争で傷ついた子供たちを見舞う寂聴（1991年）

## 交通アクセス（JR徳島駅から）

- 徒歩 約15分  
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- バス  
〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。  
〔徳島バス〕15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- タクシー・自動車 約5分  
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。
- 駐車場  
当館北側・南側にあります（62台、大型バス2台）。

